

部門紹介 院内保育室と電話交換室

院内保育室

市民病院の建物南側一角に設置された保育室。採光がとても明るく、傍を通る方々には、ここで過ごす子ども達の、元気で賑やかな声を耳にされていることと思います。時々、子連れで来院されている方から、「連れてる子どもを預かってもらえる所ですか?」と、問われる事がありますが、子ども達の保護者は、市民病院に働く看護師さんを初めとする他職員の方々です。以後「保護者」と記させていただきます。

保育室には、現在生後6ヶ月の0才児から2歳児14名の子ども達と、職員6名（保育士5名・調理員1名）が配属され、午前7時45分から午後5時45分の間保育しています。職員は、毎日保護者の方々と連絡を密に取りながら、子ども達にとって『保育室は楽しいところ』『給食美味しい!』『明日も来たいな!』、保護者の方々には『保育室に安心して子どもを預けれ、仕事ができる』と、思ってもらえるよう、職員同士がお互いに意思統一し、協力しあって、日々子供たちの健康と安全、或いは個々の成長段階を把握し、個々に環境設定やかかわり方を考え、保育に励んでいきたいと思っています。

現在、オギャ!と言って生まれ人生を駆け出したばかりの保育室の子ども達の姿は、小さな二つの目や耳を使って、低い位置から周りの友だちや、大人の仕草・振る舞い・言葉等、何でも模倣して覚え、小さいなりに学習を重ねる賢い子ども達です。私達職員をはじめとする周りの大人は、人として正しい手本を知らせていくことが大切かと思いません。

最後に、時代の変化とともに、一種の企業内保育所の役割を持つ保育室のニーズも、一般の保育所同様に変わって来ているのが現状です。



パパ・ママが頑張ってお仕事をしている時・・・

僕たち、私たちは保育室でこんな事をしています☆

【ひよこ・パンダ組保育室】

☆「何して遊ぼうかな～」☆

絵本・滑り台・おままごと・車……
お友達と楽しく遊んでいるよ!
音楽に合わせておしりフリフリ♪
みんなで踊ると楽しいよ!

☆「今日は何かな～」☆

おやつも給食も大好き!自分で食べているよ!

☆「お腹いっぱいになったら……」☆

自分のお布団でお昼寝するよ!

【みんなで散歩】

☆「公園へGO～」☆

市民病院近くの公園へ帽子をかぶって遊びに行くよ。お友達とかげっこするのが大好き!楽しいよ!

☆「市民病院外周コース」☆

バスやタクシーを見ながらたくさん歩くよ!飛行機が見える時もあるよ!!



電話交換室

「電話交換室って何してるところ？」

病院の建物の中にある交換機を電話回線（局線27本）に接続し、さらに院内にある多数の内線電機（約500台）に接続して、外部の通話や内線相互の通話ができるようになっている、例えてみれば、病院の電話局のようなところなんです。そして、「富山市民病院でございます。」「どちらにおつなぎしますか。」「かしこまりました。少々お待ち下さいませ。」皆様が422-1112にダイヤルされると、このようにお受けしているのが、私たち電話交換取扱者（電話交換手）です。

電話交換室の主な業務として、①局線着信通話の接続、②局線発信通話の接続、そして、③院内放送などがあります。局線着信通話の接続とは、例えば、「〇〇科の外来をお願いします。」といった電話を受け、内線におつなぎすることです。局線発信通話の接続とは、内線者の申込みを受けて、県外や市外、携帯電話などにおつなぎすることです。

通話の取扱いには、四原則といわれるものがあり、それは、迅速、正確、公平、親切の四つです。日常通話の取扱いは、この四原則を基本とし、常に相手の立場にたった対応を心がけています。電話の対応は顔が見えないだけに、耳から聞こえるお互いの声から全てのものを感じとろうと全神経を集中させ、相手の心や体調の訴えなど、瞬時に読み取り、迅速に対応しています。

代表電話に、一日に何百本と入る、多種多様な電話



も、朝や夕方に集中することが多く、皆様には電話がかかりにくいなどご迷惑をおかけする場合がございます。また、山岳警備隊からの連絡など、緊急を要する電話も多く入り、命に携わる病院の中継台として、緊張感を持ちながら、業務に取り組んでいます。

まだまだ行き届かないこともあるかと思いますが、これからも病院の見える窓口（声の玄関口）として、皆様に安心して頂けるよう努めていきたいと思っております。

連載企画 外来看護だより⑬

「皮膚科外来」

皮膚科は皮膚に現れた病変や異常を対象とする診療科です。医師2名と看護師3名、医療助手1名が診療に携わっています。

朝、9時には「〇〇さん1番お入りください」のアナウンスから始まります。午前中は、湿疹・蕁麻疹・足白癬（みずむし）・いぼ・アトピー性皮膚炎・带状疱疹・皮膚腫瘍など皮膚疾患全般にわたり、予約の方、そして、紹介の方や、初診の方の診療を行っています。皮膚の症状から色々な病変を見つけ、適切な科に紹介することもあります。午後はすべて予約制で行っています。電話での再診予約や予約変更も行っています。

必要に応じて検査を行い、症状の程度や治療法について、患者様や家族の方にわかりやすく説明して、治療が行われています。意外に多い足白癬（みずむし）、一度あなたもチェックしてみたいですか？

今後も待ち時間を少なくし、安心した治療をうけていただけるよう、日々皆で話し合い心がけていきたい

と思います。何か皮膚に異常が生じれば、お気軽にご相談ください。



「皮膚科外来スタッフ」

特別寄稿 新事務局長に聞く

事務局長 舘田 健一



私事で恐縮ですが、昨年7月に短期間ですが当院に入院し、手術を受けました。世評どおり、執刀医の内視鏡下での手術技の素晴らしさと、麻酔医の的確な技能に感服いたしました。

これが縁となったのか、このたび、当院の事務局長の辞令をいただきました。

さて、「地域医療連携システム」が7月3日から順次稼働しております。新聞の第1面を飾った記事でご存知の方も多いと思いますが、当院と地域の医療機関（かかりつけ医）とがネットワークを結び、当院で治療を受けていた患者さんの診療情報（カルテ・画像など）を、患者さんの了解のうえ、地域の医療機関に情報提供し、当院と地域の医療機関が連携して診察する

「地域完結型医療」を目的とするものです。

このシステムを利用して、地域の医療機関から当院の検査予約もできます（当院の高度な検査機器が利用できます）。こういったシステムの本格的な稼働は、当院が北陸地区で最初であります。

ところで、現代の行政の役割について、「まず第一義的に“住民が安全に、安心して暮らせる生活環境を確保すること”にある」という考え方があります。当院が、富山市立の公的病院として、また地域医療の中核病院として、住民の皆さんの「安全・安心」を確保することに、この地域医療連携システムが果たす役割は、大きいものがあると考えております。

富山市民病院は、地域医療のリーダー病院を目指してがんばっております。今後とも、皆様方のあたたかいご支援をいただきますようお願いいたします。

連載企画 旬をたのしむ25 「にがうり」

（栄養科）

独特の苦味が特徴のにがうりは、炒め物やスープにするなどして中国、ベトナム、タイ等世界各地でも暑い季節に食べる定番の夏野菜です。野菜の中ではブロッコリー、パセリに次いでビタミンCが豊富で、また苦味の素になっているモモデルシンという成分は、胃腸を刺激して食欲を増進させる働きがあります。

太くて短いもの、表面のイボに張りがありつぶれていないものが良品です、また色が濃いくほど苦味がつよくなります。



★豆知識 「ゴーヤ」

にがうりは和名をツルレイシといいます。沖縄ではゴーヤ、ゴーヤーと呼ばれていて、最初につくった人の名前が胡屋（ゴヤ）だったということから名づけられたという説があります。

◆献立紹介 《にがうりと茄子の味噌炒め》

- ① にがうりは半分に切り、種を除き2,3ミリ幅でスライスする
- ② スライスしたにがうりを塩もみする
- ③ 茄子は一口大に切り、素揚げする
- ④ 味噌とみりんを合わせておく
- ⑤ フライパンに炒め油をひき、②と③を入れ炒める
- ⑥ ⑤に塩、コショウと④を加え味を調える

材料(2人分)

味噌	大さじ1
にがうり	半分
みりん	大さじ1
茄子	2本
塩・コショウ	少々
揚げ油	適量
炒め油	適量

★栄養ゼミ ～夏を健康に過ごすために～

高温多湿の日本の夏、体調をくずしやすくなり乗り切るのがつらい季節です。暑くなると、体は汗を出すことで体温の調節を行います。しかし湿度が高いと汗の蒸発が妨げられ熱が体内にこもり、疲れの一因となります。

夏バテ予防にはまず、栄養のバランスが大切です。食欲がないからといって、そうめんや冷やし中華などの麺類だけでは栄養素が偏りがちです。ビタミンB₁の多い豚肉と一緒に食べるなどして、夏バテを予防しましょう。

汗をかくことが多い夏場は、野菜や果物、乳製品などを多くとり、水分やビタミン、ミネラルを、積極的に補給するよう心がけましょう。

連載企画 ボランティア・エッセイ(26)

『地域包括支援センター』の活動について 病院ボランティア 石森貞夫

高齢化社会で一番不安なことは、◎健康に関する不安、◎寝たきりや認知症になる、◎医療に対する今後の不安など、現実には年金・介護・医療費制度の改革により高齢者の窓口負担増で、受診抑制や病院にいけない人や、医療費を支払わない人などがあるように、行政の「足りないから負担を課す」がヤムを得ない施策となる反面、私たちは病気となる原因を絶つことに気付き、高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画に向けて、生きがいと尊厳をもって、自立した老後を過ごすことのできる地域社会の実現のために、市民あげて考えねばなりません。

不幸にして病にかかり、医療に対して感じることは、◎受付手続きや診療までの待ち時間が長い、◎検査や薬が多すぎる、◎診療費の負担が高くなっていることは、利用者にとって安心して任せられる病院だろうか、不安になります。通院にはいろいろなパターンがあり、①安心を確認するために、特に複数診察で自分を納得させる(内科と眼科・耳鼻科と皮膚科も・整形と内科)など、②紹介状でかかりつけのお医者さんから、より質の高い治療を総合病院で、③高度な医療機器と専門的な診断を求める、④救急治療(重傷者・持病悪化・入院)、⑤若い人の心の病(精神神経科)も多く、病は気からで、肉体よりも精神力が、若い人に不足なので、親の心配も大変だろうと感じます。

さて本年4月よりスタートした『地域包括支援センター制度』は、介護予防事業を重点に、地域における特定高齢者の実態を把握し、医療と介護の機能分担を連携強化して、①要支援・要介護状態になるおそれのある高齢者を、早期に発見し、介護予防を図る。②同じくその高齢者が、身近なところ(地域の施設や公民館)で、通いながら皆さんと共にその介護予防と、悪化を阻止す

る。③訪問型介護予防事業を行い、必要な相談・指導などその問題の解決に努める。④要援護高齢者地域支援ネットワーク事業や、介護予防ボランティアの育成支援事業、介護予防ふれあいサークル事業および介護予防・福祉情報の提供を、高齢者が福祉サービスを利用しやすいように、医療機関と地域の人々と協力しながら、福祉資源を紹介する。⑤介護予防地域啓発活動に参加して、介護予防教室に高齢者とともに取り組むなど、この要旨を私たち『地域包括支援センター相談協力員』として、先月講習会で教育を受けました。

富山市では行政機関・保健所・介護保健施設・地域医師会・居宅介護支援事業所・NPO・住民団体・民生児童委員・老人会等を含めた運営協議会を構成し、地域包括支援センターを32ヵ所認定し設定、相談協力員として573名に委嘱状を交付して、地域での活動を6月から開始しました。

また北日本新聞社では「いのちの回廊」シリーズで、医療社会の今後の大切さをキャンペーンとして取材され、特に『地域社会で予防重視型医療』も、医療関係者や読者からの訴えをまとめ、私も共感して、①病院にお世話にならない前に、地域で予防医療の充実活動に取り組む。②高齢化社会を認識して、仲間で健康維持の普及ボランティア活動を、地域で行動しよう。③病院ボランティア活動をとうして、患者さんの痛みを分かち合えることへの努力を決意しました。

お互いに自分らしくいきいき生きるには、ひとりひとりができる限り、住み慣れた地域で生活を維持できるように、予防重視型システムを考え、具体的には、▼定期検診を受けよう。▼介護予防行事に参加し、パワリハビリで運動機能を回復する。▼特に軽度な内に介護と自立支援を早期にうけるなど、病気にならない

先の自己管理が大切だと感じました。加えて現在は医療をとりまく環境は厳しく、経済的論理を最優先する医療機関、そして総医療費抑制政策のもとで医療従事者の労働条件の悪化や心のすさみなど憂慮されますが、さればどう病院を蘇生させるにはどうしたらよいか、その努力は『いのちの回廊』でみなさんの涙ぐましい必死の苦労が掲載され、男78歳・女85歳の長寿社会を認識して、医療と私達は『地域包括支援センター』の予防医療制度を確立しましょう。

富山市民病院でボランティアをしてみませんか！

思いやりのある親切で優しい気持ちと、何でも積極的にやってみようという気持ちさえあれば、誰でもできます。とは言っても、それはなかなか大変なことでしょう。どなたでも大歓迎ですから、あまり難しく考えないで、まずは体験してみませんか？

当院でのボランティア活動を通して、思いやりのある親切で優しい

気持ちや積極的にやってみようという気持ちが次第に大きく育っていかもかもしれません。当院のボランティア活動に関心を持っていただいた方は、ぜひご連絡下さい。

問い合わせ・お申し込みは
富山市民病院総務課
(代)076-422-1112
内線2203

連載企画 解説「在宅療養」④

「特定高齢者の方のサービス利用について」

地域医療連携室

今回は特定高齢者の対象となられた場合に利用するサービスについてお伝えします。

要介護や要支援状態になるおそれがあり、介護予防サービスによって改善が見込まれる方のうち、ご本人がサービスの利用を希望された場合は「特定高齢者」として介護予防サービスを受けることができます。そのサービスは生活機能の改善を目的としており、通所型と訪問型があります。サービス利用に関してはお住まいの地区にある「地域包括支援センター」が窓口となります。対象となられた場合、ご本人と相談しながら「介護予防ケアプラン（計画表）」を作成します。

主に次の4点を目標にプログラムが実施されます。どのプログラムも専門のスタッフが事前に状態を把握し、具体的にどのようなプログラムを行ったらいかがを決めます。

1. 運動器の機能向上

ストレッチング、バランストレーニング、筋力向上トレーニング等

2. 栄養改善

栄養改善に向けた食事計画をつくるための支援、相談、助言等

3. 口腔機能の向上

口腔清掃、誤嚥を予防する訓練、構音・発音訓練、呼吸法に関する訓練、食事環境についての指導等

4. その他

閉じこもりや認知症、うつの予防

実施する回数や具体的内容は、対象者の負担にならない範囲で決めますが、必要に応じて主治医に確認をとることもあります。

実施後は、その効果について評価し時には介護予防ケアプラン（計画表）を変更して実施することもあります。

当院においては、医療相談室を窓口として地域包括支援センター等と連携しておりますので、お気軽にご相談ください。次回は特定高齢者の対象にならない場合の介護予防事業についてお伝えします。

■ 予告

第15回ふれあいセミナー開催

平成18年10月14日(土)

午前10時～12時

富山市民病院3階講堂

恒例となりましたふれあいセミナーが今年も行われます。昨年は「かくれた肥満」をテーマに100名を超える大勢の皆さんが受講され、健康チェックや呼吸法の体験などに参加していただきました。

今年は「健康で長生きするためのセミナー」として、認知症の予防がテーマです。プログラムや詳しい内容は、後日お知らせいたします。また、「広報とやま」にもご案内を掲載する予定です。皆様、ふるってご参加ください。



まずは健康チェック!



手軽にできる腹式深呼吸法を体験



●「たてやま医療連携ネット」が始動しました。たてやま医療連携ネットは地域の医療機関と当院をインターネットでつなぎ、切れ目なく医療を継続するシステムです。皆様の診療情報を共有することで、地域医療の向上に役立ちます。

地域医療連携室ではご紹介に関するご相談に応じています。患者様を中心に地域医療機関と当院とつなぐ架け橋でございますので、どうぞお気軽にお声をかけてください。



イベント 「社会に学ぶ”14歳の挑戦”」体験活動

7月3日から5日間、「社会に学ぶ”14歳の挑戦”」体験活動が行われました。今回は堀川中学校から、患者経験のある生徒さんや人の役に立つ仕事をしたい、看護師になりたいと考えている生徒さんから5名(男子2・女子3名)が、当院での体験活動に挑戦されました。

看護実習、検査業務や薬剤業務の補助、調理業務の補助など多くの業務を体験し、それと同時に病院内で働く多くの職種の方から説明を受けました。

可愛い赤ちゃんを抱っこし感激したと感想を言っていた生徒さんは、将来「助産師になりたい」と恥ずかしそうに話してくれました。他にも「看護師になりたい」「薬剤師になりたい」など、将来の夢をもたれたようです。また、「患者さんの命を助けるために、沢山の人の



の努力が必要だと実感した。」
「病院を支える大勢の人達の仕事を実際に見ることができた。」など、貴重な体験になったと口々にはっきりとした答えが返ってきました。この体験が中学生の皆さんに、人生や働くことへの意義を考える機会になれば幸いです。



お知らせ

蕎麦打ちイベント開催のご案内

昨年好評だった蕎麦打ち実演を、今年も病棟デイルームで下記のごとく開催します。奮ってご参加下さい。

- 8月22日・10月17日 南3・4病棟
 - 8月23日・10月18日 8階・6階病棟
 - 8月24日・10月19日 4階・3階病棟
- 午前11:00～12:00まで



■ 今月のふれあいギャラリー(玄関ホール2階)

7月29日から8月17日まで、切り絵と銅版画(北村律子さん)を展示しています。待ち時間などに気軽にお立ち寄り下さい。尚、7月12日から展示しておりました「マイフェアレディ6」朝顔展(中村勇さん)は7月28日で終了いたしました。有り難うございました。



ふれあいギャラリーから
切り絵(北村律子さんの作品)

■ 今月のイベントと院内の動き

- 7月3日(月)：富山市民病院地域医療連携ネットワーク(愛称 たてやま医療連携ネット)が始まりました。近隣36施設とネットをつなぎ、診察などの予約ができるようになりました。カルテなどの診療情報の共有も可能となりました。(1ページ病院長からのメッセージをご覧ください)
- 7月3日から社会に学ぶ「14歳の挑戦」体験活動が行われました。(7ページをご覧ください)
- 7月14日(金)：午後2時から3階デイルームとプレイルームにおいて、小児病棟七夕まつりが行われました。ボランティアの方のご協力ありがとうございました。
- 7月18日(火)：第2回富山市民病院接遇力向上講演会が行われました。
- 7月20日(木)：「段階的食事方法で安全に楽しく美味しい料理を」をテーマに、第3回地域医療連携担当者交流会が開催されました。引き続き、「大腿骨頸部/転子部骨折」をテーマに、平成18年度第1回富山地域リハビリテーション研修会が開催されました。富山老人保健福祉圏域のリハビリテーション実施機関から多数の皆さんが参加されました。
- 7月20日～27日：18年度第1回患者満足度調査が実施されました。調査にご協力いただき有り難うございました。
- 飛騨市の齊藤晃起様より、オートスウィング付きベビーチェアなど育児ケア用品一式の寄附を頂きました。有り難うございました。



地域医療連携担当者交流会

e-お見舞いカードをご活用下さい!

インターネットを利用してどなたでも入院患者様にお見舞いカードを送ることができます。詳しくは当院のホームページ、お見舞いカード欄(ウェブサポーター欄横)をご覧ください。

■ 編集コラム

一酸化炭素中毒事故が相次いだパロマ工業製の湯沸かし器。またか、と思われる方も多いのではないのでしょうか。しかし、企業の隠蔽体質とされてきたこれまでの事件とはちょっと趣が異なるように思われます。お湯が出ないという顧客のクレームを(安全装置を短絡させることで)その場で解決することが顧客サービスだという安易な認識があったのではないのでしょうか。お湯が出た瞬間、顧客は喜び、サービスマンもそれで問題が解決したと納得してしまう、そんな状況が想像されるのです。

個々の顧客のクレームにその場その場で対応しただけでは、真の問題解決にはなりませんし、真の顧客サービスにもなりません。個々の情報が集積され、それが経営トップに伝達され、そして企業全体、傘下の末端まで対応策が徹底されて、ようやく解決の糸口が開かれるのです。このようなプロセスには情報伝達と情報共有および情報公開が重要になってきます。あのトヨタでさえ、先のリコール問題では情報共有の不備が指摘されているのです。

医療現場でもよく似たことがたびたび起こっています。真の顧客サービス(患者サービス)とは何かをより深く考え直してみるよい機会かもしれません。対照的に挙げられるのが松下電気産業の石油温風暖房機。テレビCMを何度もご覧になったことでしょう。湯沸かし器に関係した方々はこのテレビCMをどのように見ていたのでしょうか。皆さんはどうご覧になりましたか。

総編集長: 病院長 泉 良平
編集部: 齋藤勝彦・家城岩松・石森貞夫
島竹恵美子・松下桂子・玉扶持春美・川口 宏

発行: 富山市立富山市民病院広報委員会
〒939-8511
富山市今泉北部町2-1

電話 076 (422) 1112
Fax 076 (422) 1371

<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立 富山市民病院

